



秋の風物詩・・・ノーベル賞発表



もはや秋の風物詩とでもいっていいノーベル賞の発表。先日夜のニュース番組のトップニュースとして日本人が同賞を受賞したニュースが流れていました。本庶佑(ほんじょたすく)さん 76歳。ノーベル医学生理学賞。京都大学で今でも学生に教えている現役の教授です。

本庶さんへのインタビューや友だちの話から、感動したことが二つありました。

一つ目は、本庶さんは高校時代、弁護士になろうか医者になろうか迷ったときのことで。弁護士は人を助ける仕事だけど、一生かかっても何十人助けられるかわからない。医者はもっと多くの人を助けられると考え医者になりました。医者になって、病院で患者さんを見る医者と病気を治す薬などを研究する医者を選ぶとき、悩んで、何百万何千万人もの人を助ける薬などを研究開発する医者の道を選んだそうです。多くの人を助けるため、誰も見向きもしない石ころの中からダイヤモンドの原石を見つけ、光り輝くダイヤモンドに仕上げていくような基礎研究に魅力を感じる、といったところに本庶さんの確かで強い意志を感じました。見向きもされないことでも誰かのために、誰かが喜んでくれるならと思地道にこつこつ研究されている姿に感動しました。

二つ目は、「教科書を疑え」「教科書には嘘が書いてある」といいました。これは、学校の勉強はだめですよ、教科書はいりませんよ、というのでは全くありません。学校の先生たちは、教科書に書いてあることはきちんと教えますが、教科書を全部覚えなさいとか、教科書以外は勉強はしなくていいなどは絶対に言いません。教科書を通して、子どもたちに物の見方や考え方など大切なことを教えているのです。教科書を離れた場所でも勉強したことが生かせるように一所懸命に皆さんを導いているのです。本庶さんは、もちろんそれを承知したうえで、教科書で勉強して、なるほどそうか、と思うことは良くあると思うけど、なぜそうなったんだろう、もっとここを知りたい、という何かを追い求める姿、教科書を越えた学びを追求する向上心に感動しました。

本庶さんがノーベル賞を受賞した理由は、これまで教科書にはない癌の治療法を作り出したことだそうです。そしてそれが何十万何百万人の命を救うことになるんですね。日本人26人目のノーベル賞受賞、医学生理学賞では日本人5人目だそうです。うれしいことです。誇らしいことです。

住吉中学校体験入学

昨日11日(木)、第1回目の体験入学が行われました。通常は3学期の中頃、6年生にとって卒業間近になって実施されますが、住吉中学校は、3学期に加えこの時期にも体験入学を実施します。この目的は、住吉中学校校区の緑川小と網津小ができるだけ早い時期から交流し親睦を深めスムーズな中1ギャップの軽減を図ることです。

10時40分から始まった全体会の終わりにはレクレーションタイムが設けられ、子どもたちはうちとけ、協力してゲームを楽しんでいました。被服室で外国語活動の後、5つの教室に分かれて給食(レインボー給食)をいただきました。午後は、住中1年生とレクレーションを楽しみ、掃除も一緒にさせていただきました。最後は、音楽鑑賞会でした。緊張したかもしれませんが、すでに修学旅行で交流活動は経験済みでしたので、網津小の児童に声をかけたりするシーンをよく見かけました。



英語版「あっち向いてほい」

いい本に出会うことはいい人に出会うことに似ている

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐくむことができます。ですからテレビやマンガが好きな子にも、本を読む時間をもつように家庭で習慣づけたいものです。

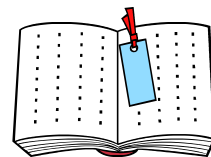
そのためにも、食事の時間のように「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親も一緒に本を読むなど工夫し、子どもが読書の楽しさとお出合いのきっかけをつくりましょう。また、読書を通じて子どもが感じたり考えたりしたことに耳を傾け、話し合うなど、親子の会話を増やし深める契機として読書を活用することも大切です。

これは、文部科学省が出した「家庭教育手帳」より抜粋したものです。

読書の重要性はこれまで幾度となく学校からもメディアからも発信されているところですが、子供に「本を読みなさい！」といってもなかなか定着しないようです。緑っ子は、読書好きの子が多く、それは図書室利用の数字にも表れています。ただ、読む本の内容が、本人の発達段階に適合しているかというのをひねることがあります。そのため学年に応じたお薦めの本が本校図書室に用意されています。ご家庭でも時々お子さんが持ち帰る本を見ていただき、声かけをしたり、一緒に読書をしたり、読み聞かせをしたりしていただければより読書好きな子供になると思います。読書の秋、秋の夜長を親子で楽しんではいかがでしょうか。



ちなみに私はと言いますと、小学校中学校と読書は苦手な方でした。高校の友達の影響で読んだ本をきっかけに読書好きになったようです。今では、これは！という本は自分の小遣いで買って読んでいます。図書館からも1ヶ月に1回の割合で3冊程度借りて読んでいます。読み方が変わっていきまして、3冊同時進行的に読みます。ジャンルも小説から人生本、歴史書など様々です。



宇土市陸上記録会

10月5日(金)、宇土市運動公園で陸上記録会が開かれました。順延になり、当日も天候が心配されましたが、子どもたちのやる気が雨雲を吹き飛ばしたようです。本校からは全5、6年生が参加しました。トラックにフィールドに宇土の小学生が集い、陸上で競い合う姿に本当に感動しました。緑っ子もほとんどが全力を出し切ったと言っていました。なかまへの応援はピカイチでした。また、移動はJRと徒歩でしたが、往復の間、競技場での応援やマナーにも緑っらしさを発揮していました。今大会の上位入賞者及びリレーメンバーは、10月26日(金)宇城陸上記録会(松橋高校グラウンド)に出場します。



あいさつコンテスト



10月のはじめの3日間、児童会運営委員会が企画したあいさつコンテスト。「明るく、元気よく、大きな声で、笑顔で」が審査基準です。とても気持ちのいいあいさつができる子どもたちばかりですが、その中でも優秀賞を獲得したのは次の子どもたちです。おめでとうございます！

1年 千田るきあくん 2年 竹下よしはるくん 3年 今村さちさん
4年 今村れんくん 5年 吉本瑠櫻くん 6年 鳥井雅也くん

「あいさつ」の「あ」は明るく、「い」はいつでも、「さ」は先に、「つ」は続けて、とも言います。気持ちのいいコミュニケーションづくりはあいさつからだと思います。

